

龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University
Learning Support・
Educational Development
Center Report



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日: 2020年6月 編集・発行: 龍谷大学 学修支援・教育開発センター

2019年度ライティングサポートセンター活動報告



ラーニングcommons



ライティングサポートセンター



ライティングサポートセンター



教学SD

2019, Number 02

CONTENTS

p03 2019年度ライティングサポートセンター活動報告

第15回龍谷大学FDフォーラム2019開催報告

p04 「データサイエンス教育の展開—教育実践に向けて—」

FD研修会

p06 「学生に使われる科目ナンバリング」開催報告

2019年度第2学期

p07 「学生による学期末の授業アンケート」実施報告 manaba course 利用状況

p08 2019年度学修支援・教育開発センター事業内容報告

p11 新着図書紹介

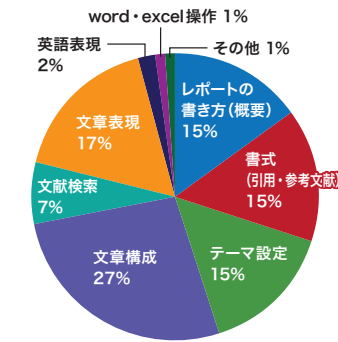
〈レポートの作成に関する相談対応事業〉

2018年度に3キャンパス全てに設置されたライティングサポートセンター(以下、「センター」という。)は、2年目の活動を終わりました。2019年度は、授業期間中に深草キャンパスは週5日、大宮・瀬田キャンパスは週3日センターを開室し、24名のライティングチューター(大学院生)が学部生のレポートの書き方等の相談対応を行いました。結果、今年度の実績は、延べ相談者数(相談枠を45分に設定しているため、45分の区切りで算出)が1,422名で昨年度より104名増えました。

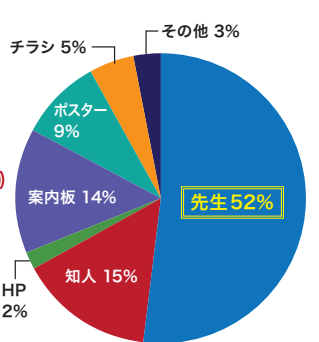
また、利用者アンケートによると、センターを利用したきっかけの半数が先生からの紹介という結果になりました。本ページ最下段「2020年度前期ライティングサポートセンター開室予定」をご覧ください、積極的なご案内のほど、よろしくお願いいたします。

【2019年度年間利用者実績】

(1) 相談内容性質の割合



(2) 利用したきっかけ
※利用者アンケートより



〈相談対応以外の支援事業〉

1. 講習会

講習会とは、通常の1対1のライティングに関する相談対応とは違い、主に昼休みに学生を集め、これまで蓄積された相談者のデータをもとに学生がつまづきやすい内容をピックアップし、ライティングスーパーバイザーが講師となり、勉強会を行うものです。

※2020年度講習会の開催予定が決まりましたら、改めてご案内いたします。

2. 出張講習

出張講習とは、科目担当者(原則、1回生受講科目)の依頼にもとづき、ライティングスーパーバイザーが授業に出向いて、レポート作成において必要な内容(論文の構成、引用の仕方等)をテーマに60分講義を行うものです。

2019年度は、8つの授業で実施し、利用者アンケートでは、96.4%の学生が「とても役に立った」「まあまあ役に立った」を回答しました。

※2020年度出張講習の開催予定が決まりましたら、改めてご案内いたします。



2020年度前期ライティングサポートセンター開室

前期は、従来の対面での相談は行わず、Google Meet を使用し、オンラインで行います。利用は完全予約制で、ポータルから申し込みます。

【開室期間】 2020年5月20日(水) - 8月3日(月)

【開室時間】 11:30 - 15:30 (授業実施期間中)

詳しくはホームページをご覧ください。

URL: <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/index.html>

Writing Support Center
ライティングサポートセンター
2020 オンライン相談、受付中!

私たちが全力でサポートします!

【開室期間】 2020年5月20日(水) - 8月3日(月)
【開室時間】 11:30 - 15:30 (授業実施期間中)
【相談方法】 Google Meetにて対応します。完全予約制で、ポータルから申し込みます。
※詳細は、龍谷大学ライティングサポートセンターのページをご覧ください。
→ <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>

ライティングサポートセンター

2019年12月5日(木)に第15回龍谷大学FDフォーラム「データサイエンス教育の展開—教育実践に向けて—」を開催しました。

今回テーマとしたデータサイエンスについて、社会の変化、特にSociety5.0に向けて、データサイエンスに関する知識・技能が社会人として必要とされるようになり、2020年度から国立大学ではデータサイエンス教育を必修にするという報道がなされています。本学でも経済学部や先端理工学部でデータサイエンス教育の展開が始まっています。このような状況のなかで、大学教育としてどのようなデータサイエンス教育を目指しているのか、また、具体的な教育プログラム(到達目標、設置科目とその内容)について、情報交換並びに議論することを目的にFDフォーラムを開催しました。

本フォーラムでは、本学の教学展開の紹介に加えて、先行してデータサイエンス教育を行っている大学の先生方をお招きして、成果や課題等を参加者の皆様と共有しました。またすべての報告を終えた後、講演者全員でパネルディスカッションを行いました。

【全体スケジュール】

○事例報告

- ① 武蔵野大学データサイエンス学部の学修イノベーション
上林 憲行教授(武蔵野大学データサイエンス学部長)
- ② 実践的データサイエンティスト育成のための
カリキュラム設計
笹嶋 宗彦准教授(兵庫県立大学社会情報科学部)
- ③ 龍谷大学経済学部のデータサイエンス教育
溝淵 英之准教授(龍谷大学経済学部教務主任)
- ④ 龍谷大学先端理工学部(2020年開設)の
データサイエンス教育
樋口 三郎准教授(龍谷大学理工学部)

○パネルディスカッション:

- 全報告者及び
藤田和弘教授(龍谷大学学修支援・教育開発センター長)

武蔵野大学データサイエンス学部



上林憲行教授から、武蔵野大学データサイエンス学部の教学展開について報告がありました。同大学では、統計学や数理的なバックグラウンドを基本としたデータ分析という価値を考慮しておられ、機械学習等を全面的に活用して価値創造するところまでをゴールとし、最新のAIツールを使って具体的課題を解決できたり、サービスをデザインできることを重視されています。また、「面白くて」「夢中になれて」「達成感があって」「肯定的フィードバックがある」等をキーワードに、心に響く当事者性があることを大事にされています。

さらに、同大学は、文部科学省の「AI戦略2019」を受けて、2020年度からすべての文系学生に対して、データ・人工知能・メディアリテラシー教育を必修化されるとのことです。

兵庫県立大学社会情報科学部

笹嶋宗彦准教授から、社会情報科学部の紹介からはじまり、実際の授業展開や、企業等との連携状況、最後に今後の課題に関する報告がありました。社会情報科学部では、「実践」に軸足を置き、1回生から企業との連携授業を実施されています。

課題としては、在学生全員がデータサイエンティスト志望ではないため、まずはできるだけ多くの学生に経営や社会への興味を持たせることや、開設当初ということもあり、試行錯誤のため教員側の負担も多く、授業負担を軽減する必要性があること等を挙げられていました。



龍谷大学経済学部



溝淵英之准教授から、経済学部で目指すデータサイエンス教育「経済データサイエンスプログラム」の紹介及び今後の展望と課題について報告がありました。

今後の展望として、初年次教育とデータサイエンス教育の連携や、パソコン環境(BYODの可能性)の整備、標準カリキュラムへの対応(認定制度の可能性)等を挙げられていました。

龍谷大学先端理工学部

樋口三郎准教授から、先端理工学部の概要、データサイエンス学修プログラムについて、報告がありました。

先端理工学部は、6つのどの課程に入学しても、データサイエンスを学ぶことができるため、専攻・学修プログラムの他、学生は自主的活動の必要性に応じて、選択することができる旨、お話がありました。



パネルディスカッション



Q データサイエンス倫理を学部教育に組み込まれていますか。
A (兵庫県立大学)「情報倫理と法」や演習科目の1回目の授業で、連携する企業のデータを違法に使わない旨の誓約書を書かせています。

参加者アンケートより

- 各大学のデータサイエンスの取り組みについて知ることができました。今後、2年3年とデータサイエンティストとして育成する講義をどのように取り組まれるのか、気になりました。
- 現場の苦勞を感じて、参考になりました。
- これからデータサイエンス教育を展開する上で、何が必要かについて参考になりました。

2020年2月7日(金)に筑波大学 大学研究センター准教授の田中正弘氏をお招きし、FD研修会「学生に使われる科目ナンバリング」を開催しました。

今回テーマとした科目ナンバリングについては、中教審答申や、文部科学省補助事業等においても、その導入が繰り返し提言されており、この間、各大学ではナンバリングの導入が進んでいます。本学においても、「2019年度全学的な教学政策課題」のなかに、「順次性・体系的な学位プログラムの構築に向けたナンバリングの策定」を掲げ、学修支援・教育開発センターの下におかれた指定研究プロジェクトにおいて、全学共通ナンバリングコード体系の策定に向けて情報収集を重ねてきました。こうした経緯を踏まえ、教学系会議構成員を対象にナンバリングの共通理解を深めることを目的とし、FDを開催しました。

当日は、まず田中先生から「学生に使われる科目ナンバリング」をテーマに講演いただき、その後、講演内容を踏まえて、教学主体ごとに履修要項を用いて実際にナンバリングの付番を行うグループワークと全体での意見交換・質疑応答を行い、ナンバリングの理解を深めました。



田中正弘准教授

科目ナンバリングの意義と目的

意義と目的

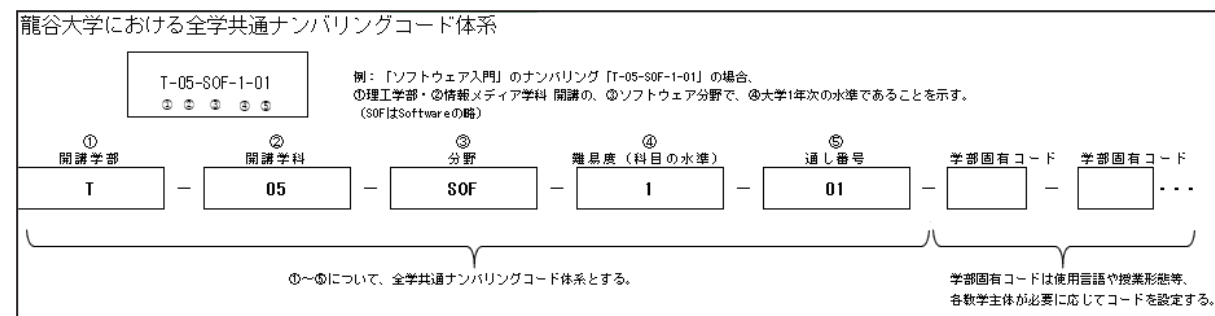
- 国内外の大学との**単位互換**が容易になる。
 とはいえ、学問分野や難易度の分類ルールが他大学と統一されていないと、利用しにくい。
- 留学生(および他大学の学生)が、学問分野や難易度に応じて**授業を選びやすくなる**。
- WEB上で学問分野と難易度を入力すると、対応する科目一覧が表示されるシステムがあると、便利である。
- 学際的な教育課程に所属する学生が、興味関心に応じて**自ら履修を体系化**できる。

一番大事

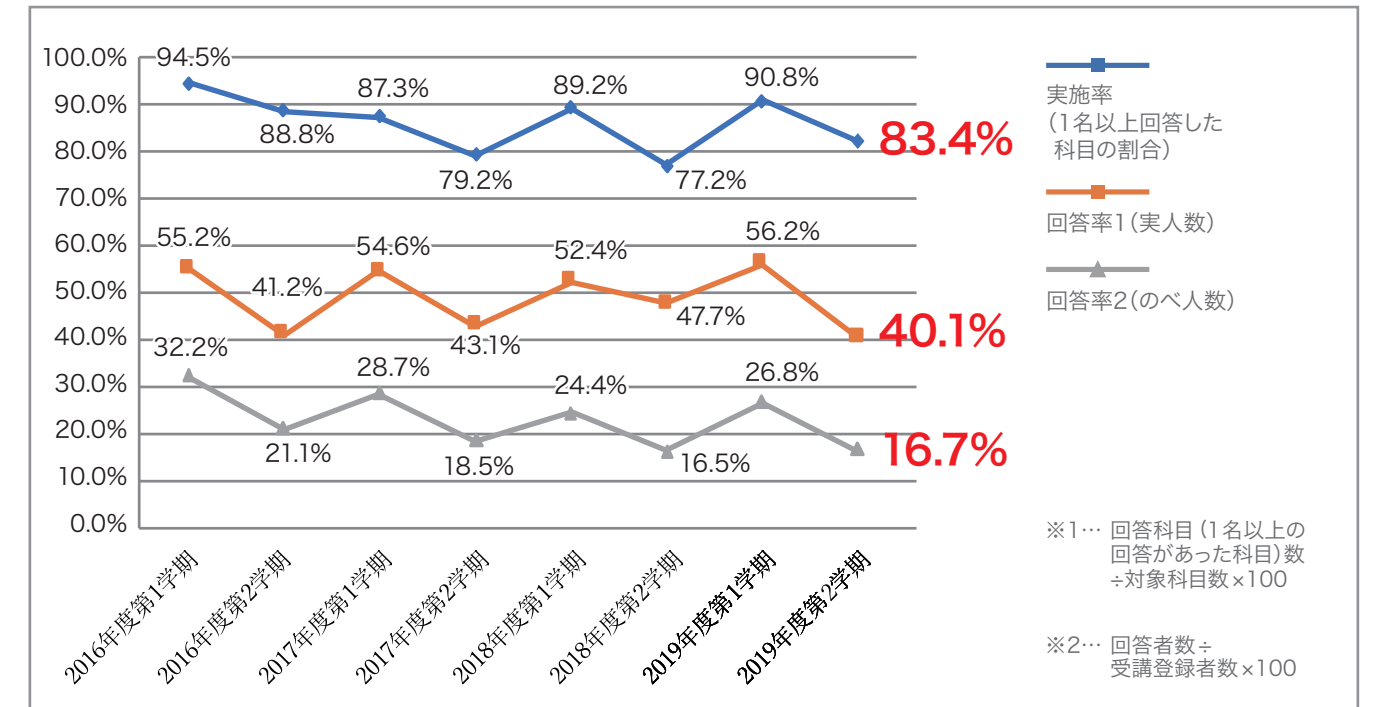
(当日の配付資料より)

全学的導入に向けた今後の展開について

本FDの内容を踏まえて、学修支援・教育開発センター会議及び全学教学政策会議でナンバリングの全学導入について審議した結果、全学共通のナンバリングコード体系について、承認されました。今後の展開については、カリキュラム改革や学科改組との関係から、望ましい導入時期が異なるため、各教学主体において、全学共通ナンバリングコード体系に基づき、必要に応じてナンバリングの付番をおこなうこととしています。ナンバリング導入にあたっての分野コードの策定などの詳細は、各教学主体で検討することとなりました。

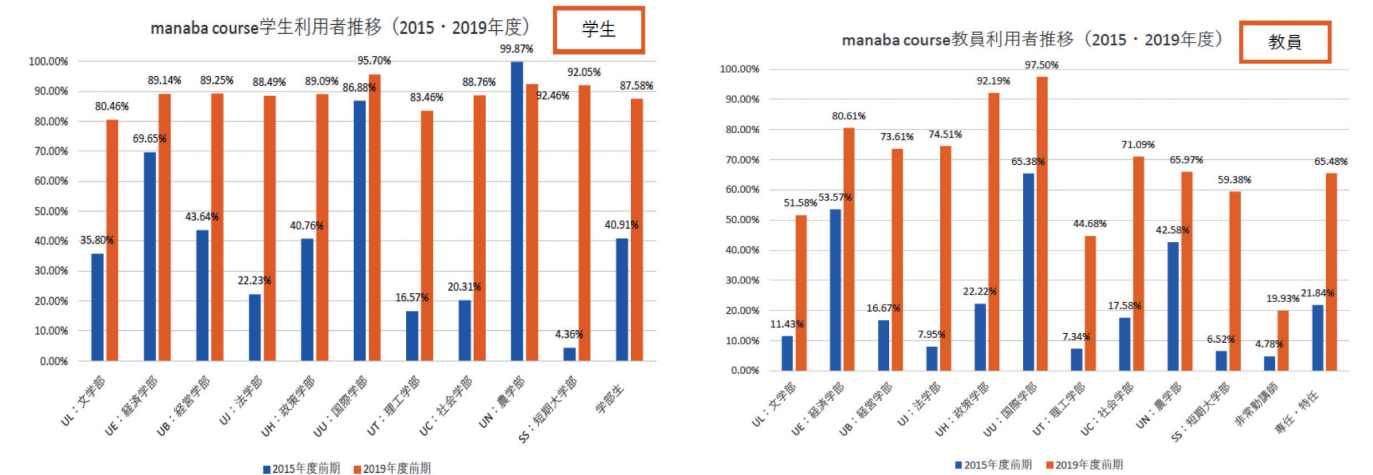


「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。4年目となる今年度の第2学期の実施率※1は83.4%(対前年度比6.2%増)、回答率※2は16.7%(対前年度比0.2%増)となりました。



manaba course 利用状況

manaba courseは2015年度に全学導入されました。2016年度からは上記のとおり、学期末の授業アンケートをmanaba courseで実施しています。利用者は、学生・教員ともに年々増えています。導入当初と現在の学部別利用者は、学生・教員それぞれ以下のとおりです。



※算出方法「1. 学生」「2. 教員」ともに以下の方法で算出した。
 ① 2015・2019年度ともに4~7月の各月に1度でもmanaba courseへログインした学生・教員をカウントし、学部別等に割合を算出した。
 ② ①の年度ごとの平均値を算出した。
 例: 2015年度文学部学生(35.8%)の場合 [34.2%(4月)] + [35.2%(5月)] + [33.8%(6月)] + [40.1%(7月)] ÷ 4(カ月) = 35.8%

1. 教育開発・研究

(1) 自己応募研究プロジェクト

教育改革を推進する一環として、次の6件の自己応募研究プロジェクトを推進した。
また、研究成果の共有を目的として、昨年度に引き続き「自己応募研究プロジェクトポスター展示」を、2019年3月26日(火)から4月25日(月)の期間に3学舎において実施する予定である。

| テーマ | 代表者 |
|--|----------------|
| デジタルとアナログの融合を考慮したmanaba courseの効果的活用 | 西岡 久充 (経営学部) |
| Moodle機能を使っのチーム基盤型学習(Team Based Learning/TBL)―学生の主体性をどこまで高めることができるか― | 李 洙任 (経営学部) |
| 全学無線APを利用した出欠管理システムの開発 | 佐野 彰 (理工学部) |
| チャットボットによる問題演習・振り返り支援システムの開発と試行 | 樋口 三郎 (理工学部) |
| 演劇の講義のためのビデオのデジタル化と編集 | ジョナ・サルズ (国際学部) |
| 保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発 | 生駒 幸子 (短期大学部) |

(2) 指定研究プロジェクト

2019年度指定研究プロジェクトについては、次の3件のプロジェクトを推進した。なお、指定研究プロジェクトの成果を共有するため、各プロジェクトの研究報告がまとまり次第、「2019年度指定研究プロジェクト報告会」を開催する。

| テーマ | 代表者 |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| ティーチング・ポートフォリオの調査・研究 | 藤田 和弘 (理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長) |
| 順次性・体系的な学位プログラムの構築に向けたナンバリング策定の調査・研究 | 藤田 和弘 (理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長) |
| 龍谷大学正規学部留学生に必要とされる能力についての研究 | 只友 景士 (政策学部/教学部長) |

2. 教育改善活動支援

(1) 学生による学期初めの授業アンケート

授業を展開する上で重要な学期初めにおいて、各教員が必要に応じて実施できる授業アンケートが有用であることから、授業期間初期における授業改善(学生へのフィードバック等含む)が可能となるよう、以下のとおり「学生による学期初めの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2019年度第1学期・第2学期全開講科目

■第1学期実施状況

(実施期間2019年4月9日(火)～4月29日(祝・月))

| | |
|------|--------|
| 利用枚数 | 9,900枚 |
|------|--------|

■第2学期実施状況

(実施期間2019年9月20日(金)～10月10日(木))

| | |
|------|--------|
| 利用枚数 | 5,972枚 |
|------|--------|

(2) 学生による学期半ばの授業アンケート

学期半ばにおいて、受講している学生の授業に関するニーズや要望等を把握し授業内容・方法等の見直し・改善を行うとともに、その結果を学生にフィードバックすることで学生の学習意欲の向上につなげることを目的として、「学生による学期半ばの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2019年度第1学期・第2学期全開講科目

■第1学期実施状況

(実施期間2019年5月22日(水)～6月11日(火))

| | |
|------|--------|
| 利用枚数 | 7,470枚 |
|------|--------|

■第2学期実施状況

(実施期間2019年11月5日(火)～11月25日(月))

| | |
|------|--------|
| 利用枚数 | 5,829枚 |
|------|--------|

(3) 学生による学期末の授業アンケート

昨年度に引き続き「学生による学期末の授業アンケート」を実施した。

学期末の授業アンケートの実施方法については、2016年度よりこれまでの紙媒体(一部Web含む)から、manaba course上で実施する形へ全面移行した。アンケートの実施状況については以下のとおりである。

対象科目：2019年度第1学期・第2学期開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目については、各開講責任組織で判断し実施した。

■第1学期実施状況

(実施期間2019年7月9日(火)～8月6日(火))

| 対象科目数 | 2,724科目 | 受講登録者数 | 159,410人 |
|-------|---------|--------|----------|
| 実施科目数 | 2,493科目 | 回答者数 | 42,805人 |
| 実施率 | 91.5% | 回答率 | 26.9% |

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

■第2学期実施状況

(実施期間2020年1月6日(月)～2月3日(月))

| 対象科目数 | 2,697科目 | 受講登録者数 | 146,502人 |
|-------|---------|--------|----------|
| 実施科目数 | 2,249科目 | 回答者数 | 24,519人 |
| 実施率 | 83.4% | 回答率 | 16.7% |

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

(4) 教学IR(Institutional Research)機能の整備

本学における教学IRの定義に基づき、2018年度に引き続き、大学IRコンソーシアムの学生調査をおこなった。1回生調査については、昨年度の5学部(文学部・経済学部・理工学部・社会学部・国際学部)から2学部(経営学部・農学部)が増え、計7学部が実施した。また、今年度から理工学部と国際学部は上級生調査(3回生対象)※も行った。

これらの調査結果をもとに、本学学生の「学修行動」、「能力の伸張に関する自己評価」、「満足度」などについて、他大学と比較した学部ごとの傾向を抽出し、また、上級生調査を行っ

た学部については、1回生からの学修状況や知識・能力の伸長の結果について、分析した。

※大学IRコンソーシアム学生調査は、在学時に2回(1年次・3年次)実施するものである。このため、2017年度に1年次生調査を実施した理工学部・国際学部は、同学生(3年次生)対象に「上級生調査」を実施した。

<本学における教学IRの定義>

「教学IRとは、教学における内部質保証体制の確立及び強化を目的として、教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組みのことをいう」

3. 教育活動交流・研修

(1) 専任教育職員新任者就任時研修会

昨年度に引き続き、龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施した。

| 開催日 | 研修名 | 主催/講師 |
|---------|----------------|--|
| 4月1日、2日 | 2019年度新任者就任時研修 | 吉岡 祥充(副学長) 藤田 和弘(学修支援・教育開発センター長) 深尾 昌峰(REC) 清水 耕介(研究部長) 窪田 和美(大学評価支援室) |

(2) FDフォーラム

「第15回龍谷大学FDフォーラム2019」として本学の教学展開の紹介に加え、他大学におけるデータサイエンス教育先行事例の成果及び課題を共有することを目的に開催した。

| 開催日 | テーマ | 内容 |
|-------|-----------------------------|--|
| 12月5日 | データサイエンス教育の展開 ―教育実践に向けて― | 本学の教学展開の紹介に加え、他大学におけるデータサイエンス教育先行事例の成果及び課題共有 |

(3) FDサロン

学内教職員のFD活動に関する啓発と交流を図るため、以下のとおりFDサロンおよび勉強会を実施した。

| 開催日 | テーマ | 主催/講師 |
|------------|---|----------------------------------|
| 7月16日 | <FDサロン> 「高校現場ではどのような授業が行われているのか」 ～京都府立桂高校のアクティブラーニング型授業の事例から～ | 西山 周平氏 (京都府立桂高等学校 教諭・数学) |
| 9月25日 | <学生FDサロン> データサイエンス教育に関するFD「畳込みニューラルネットワーク」 | 藤田 和弘 (学修支援・教育開発センター長、理工学部教授) |
| 2020年1月24日 | 爆睡、携帯、私語が見られない、学生たちが主役になる授業マネジメント | 李 洙任(経営学部教授) |

(4) 公開授業

自己応募研究プロジェクトの中間報告として、以下のとおり公開授業や講評会を実施した。

| 開催日 | 代表者 | テーマ |
|--------|---------------|--|
| 7月6日 | 生駒 幸子(短期大学部) | 保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発 |
| 11月5日 | 李 洙任(経営学部) | Moodle機能を使っのチーム基盤型学習(Team Based Learning/TBL)―学生の主体性をどこまで高めることができるか― |
| 11月20日 | 佐野 彰(理工学部) | 全学無線APを利用した出欠管理システムの開発 |
| | 樋口 三郎(理工学部) | チャットボットによる問題演習・振り返り支援システムの開発と試行 |
| 12月13日 | 西岡 久充(経営学部) | デジタルとアナログの融合を考慮したmanaba courseの効果的活用 |
| 12月19日 | ジョナ・サルズ(国際学部) | 演劇の講義のためのビデオのデジタル化と編集 |

(5) FD 報告会 (研修会含む)

昨年度に引き続き、各学部・研究科のFD活動の取組状況や成果を全学で共有するため、以下のとおりFD報告会を開催し、教学資産の共有とFDの普及を図った。

| 開催日 | 学部等 | テーマ |
|-----------------|-----------|---|
| 5月15日 | 理工学部 | 龍谷IP「公募推薦入学者を対象とした入学前課題の実施」 |
| 6月 5日 | 理工学部 | 龍谷IP「グローバル人材育成を目指すASEAN体感プログラム（ベトナムおよびシンガポールの大学・企業をめぐる理工系スタディツアー）」の事業実施報告 |
| 6月12日 | 経営学部 | 高ストレスをメンタル不調に導かないこつとは？—教育活動の充実に向けて— |
| 6月26日 | 農学部 | 農学部における進路実績報告 |
| 7月10日 | 文学部 | 単位僅少者の動向調査と支援方策の検討 |
| | 実践真宗学 研究科 | 仏教と医療・福祉の連携を求めて |
| | 社会学研究科 | コピー&ペースト発見支援ソフトの現状と課題 |
| 7月24日 | 法学部 | eポートフォリオ (Mahara) について |
| 8月 2日 | 経営学部 | 【1部】「マネジメント演習 (基礎)」及び「マネジメント演習I」の試行について 【2部】合同型演習における合同報告会I |
| 9月25日 10月30日 | 障がい学生 支援室 | 障がい学生支援に関する教職員向け研修会 聴覚障がいの理解と手話 |
| 10月16日 | 経営学部 | 2019年度第4回経営学部FD報告会～2019年度プログラム科目実施報告会～ |
| 10月23日 | 農学部 | 農学部2019年度第2回FD報告会 農学部1期生の学修状況について |
| 11月 6日 | 農学部 農学研究科 | 農学部2019年度第2回FD研修会 農学研究科第1回FD研修会—理工学部の30年、そして先端理工学部へ |

| 開催日 | 学部等 | テーマ |
|--------|--------|---------------------------------|
| 12月 4日 | 理工学研究科 | メンタルヘルスケアについて |
| 12月11日 | 短期大学部 | 「紙コップ」という素材を通した「主体的・対話的・深い学び」とは |
| | 政策学部 | 政策実践・探究演習 (海外) 報告会 |
| 12月18日 | 理工学部 | 教員活動自己点検 特定科目の成績分布データに基づく検証 |
| 12月21日 | 経営学研究科 | 経営学研究科新カリキュラム (案) の概要について |

2020年

| 開催日 | 学部等 | テーマ |
|-------|-------------|---|
| 1月15日 | 政策学部 政策学研究科 | 地域連携型教育 (CBL) プログラムのモデル化および質保証の実質化—現代のニーズに応える教育を目指して— |
| 1月22日 | 法学部 | 『大学生基礎力レポートII』の結果報告について |
| | 経済学部 経済学研究科 | 経済学部「早期卒業制度」を振り返って |
| | 理工学研究科 | 男女共同参画推進のために |
| | 社会学部 | 学生の主体性を促すCBL・PBL教育～政策学部の組織的な教育実践から学ぶ |
| 1月29日 | 経営学部 | 2019年度第5回経営学部FD報告会～合同型演習における合同報告会II～ |
| 2月20日 | 短期大学部 | アクティブラーニングの実践 |
| 3月 4日 | 文学部 文学研究科 | 基礎演習TA・ST制度の再点検—実りある制度を構築するために— |

4. 学修支援

(1) スチューデントcommonsの充実

スチューデントcommonsの充実について、さらなる効果的な利活用へ向け、グローバルcommonsとナレッジcommonsと連携し、学修成果への効果検証と利用促進に関する2つのワーキングを設置し、検討を行った。

まず、効果検証について、全学生を対象にcommonsの利用目的や利用に伴う授業理解度等に関するアンケート調査を行い、その結果をもとにcommons関係会議において、学修成果への効果を検証した。

また、利用促進について、広報や利用環境の観点から、各commonsの情報共有や他大学の調査を踏まえて検討を行った。広報面ではホームページの活性化に向けてコンテンツを充実させ、環境面では、掲示物の運用ルールを共有し、利用環境を向上させた。

(2) ライティングサポートセンターの充実

3キャンパスのスチューデントcommonsでライティング支援を展開するライティングサポートセンター(以下、「センター」という。)は全学的組織となり2年目を迎えた。今年度も現場責任者のライティングスーパーバイザーのもと、ライティングチューター(大学院生)が学部生のレポートの書き方等の相談対応を行った。

今年度は、新たな試みとして、学生のライティング能力の向

上や学生のセンターの利用促進を目的に、出張講義(※2)の実施やセンターのホームページを整備した。また、ライティングチューターがセンター業務を行うことでどのような成長があったかを把握するため、ルーブリック形式で自己評価をする成長度調査を行った。

※1 相談枠を45分に設定しているため、45分の区切りで算出している。

※2 科目担当教員の依頼にもとづき、ライティングスーパーバイザーが授業に出席し、ライティング関連の講義やセンターの紹介を行う。

(3) 学修ポートフォリオ(キャリアビジョン・フォリオ)の構築

学生自らの正課及び正課外の諸活動に対し、その過程や成果を管理・蓄積できる仕組みとして、全学的に学修記録システムを構築するため、eポートフォリオ関係会議において、オープンソースのeポートフォリオシステム「Mahara」について検討を行った。今年度は希望する6学部を対象に試行し、利用者からの意見やシステムの特徴的な機能紹介を受けたほか、金沢工業大学を訪問し、eポートフォリオの活用と普及方策に関する先行事例を調査した。

そうした経緯を踏まえ、本学の状況に適したシステムの検討をおこなった結果、これまでの試行による知見を活かし、2020年度に「Mahara」を全学導入することを決定した。

5. 学内外との連携、情報収集・発信

(1) 各学部・研究科との連携

各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図るため、「学部FD協議会」「大学院FD協議会」を各1回開催した。

| 開催日 | 会議名 | 内容 |
|-------|-------------|--------------------------|
| 6月 7日 | 第1回学部FD協議会 | 2018年度各学部・研究科のFD活動報告について |
| | 第1回大学院FD協議会 | 2019年度各学部・研究科のFD活動計画について |

※上記FD協議会については、学部・大学院の合同開催とした。

(2) 他大学等との連携

全国私立大学FD連携フォーラム、(社)私立大学連盟、(財)大学コンソーシアム京都、関西地区FD連絡協議会等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加した。

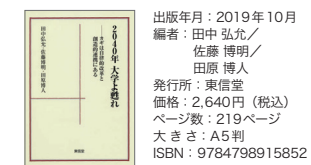
(3) 情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、

新 着 図 書 紹 介

2040年 大学よ甦れ

—カギは自律的改革と創造的連携にある—

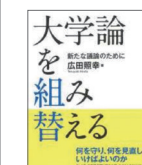


出版年月：2019年10月
 編者：田中弘久 / 佐藤博明 / 田原博人
 発行所：東信堂
 価格：2,640円(税込)
 ページ数：219ページ
 大きさ：A5判
 ISBN：9784798915852

「学問の自由」と大学の「自主・自律」の具体的提案-大学ルネサンスの新時代へ！
 財・官主導の新次元の「大学改革」の実態に切り込み、そこから現状の抜本的改善を提案することで、「学問の自由」と真の「自主・自律」に向けた現実的な方途を構想する。いま、各地で蠢動しつつある再編・統合では果しえない大学の創造的再生を目指して、元国立大学学長の3人が再び集結し、わが国の「大学改革」に鋭くメスを入れる！

大学論を組み替える

新たな議論のために



出版年月：2019年10月
 編者：広田 篤幸
 発行所：名古屋大学出版会
 価格：2,970円(税込)
 ページ数：303ページ
 大きさ：46判
 ISBN：9784815809676

何を守り、何を直していいよいか。なしくずしの政策追随に陥る大学。なぜこんなことになっているのか。価値や理念や規範をめぐる議論を避けることなく、教育の質、評価、学問の自由など具体的なトピックを通して、よい改革論とダメな改革論を区別し、大学が公共的な役割を果たし続けられる道を拓く。

「大学改革」という病

学問の自由・財政基盤・競争主義から検証する

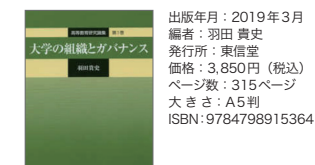


出版年月：2017年7月
 編者：山口 裕之
 発行所：東信堂
 価格：2,750円(税込)
 ページ数：296ページ
 大きさ：B6判
 ISBN：9784750345468

「役に立つ学問」という幻想、「純粋な学問」という神話。大学改革における論点を整理し、改革を推進する側と批判する側の根拠や正当性を再考する。「大学とは何か・今後どうあるべきか」を考えるために知っておくべき手掛かりがここに。

高等教育研究論集

大学の組織とガバナンス



出版年月：2019年3月
 編者：羽田 貴史
 発行所：東信堂
 価格：3,850円(税込)
 ページ数：315ページ
 大きさ：A5判
 ISBN：9784798915364

欧米や東アジアの大学改革と比べ、この30年のうちに大きく遅れを取っている日本の問題は、研究の質的劣化と大学の組織改革・ガバナンスである。90年代大学大綱化から始まり国立大学法人化を経て様々な改革が進められてきたが、見るべき成果はない。本書は研究の薄い日本の大学組織・ガバナンスについて、大学政策論、法人制度、組織理論、管理運営マネジメント論、学長リーダーシップ論、学長選考システム、大学職員論、大学団体論など多様な視点から切り込んだ、第一級の大学総合的研究である。大学学長や理事をはじめ、関係者必読の高等教育研究論集第1巻。

SDのための速読

大学教職員の基礎知識(2019年度改訂版)



出版年月：2019年4月
 編者：上杉 進世
 発行所：学校経営研究会
 価格：1,650円(税込)
 ページ数：115ページ
 大きさ：B5判
 ISBN：9784908714238

大学教職員に知ってほしい最低限の基礎的な知識を網羅した入門書。学校教育制度の歴史、教育関連法令、大学の財務、国による財政支援、キャリア支援などについて説明する。用語解説も掲載。

大学職員のための人材育成のヒント

失敗事例から学ぶケースワーク28の視点



出版年月：2014年6月
 編者：津谷 敏行 / 五藤 謙三 / 河口 浩
 発行所：関西学院出版会
 価格：990円(税込)
 ページ数：104ページ
 大きさ：B6判
 ISBN：9784862831637

大学行政の現場から28の失敗事例を集め、異文化間コミュニケーションの手法を用いて分析。多様な価値観から解決策を探る。

グローバル化時代の教育改革

教育の質保証とガバナンス

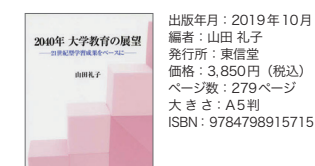


出版年月：2019年6月
 編者：東京大学教育学部 教育ガバナンス研究会
 発行所：東京大学出版会
 価格：3,520円(税込)
 ページ数：286ページ
 大きさ：A5判
 ISBN：9784130513463

グローバル化の時代は学力の概念を変え、経験のない多様性や深い判断に日本の学校・大学を向かい合わせることとなった。教科教育から、学校・地域のデザイン、教師論、そして教育行政、国際比較まで、東京大学教育学部のスタッフが結集して、改革の現在とその向かいつつある先を活写し、問題を提起する。

2040年 大学教育の展望

21世紀型学習成果をベースに



出版年月：2019年10月
 編者：山田 礼子
 発行所：東信堂
 価格：3,850円(税込)
 ページ数：279ページ
 大きさ：A5判
 ISBN：9784798915715

大学教育の新天地へ。今日の大学は、研究機関としてのみならず、学生の自律性の獲得やイノベーション創出、STEM人材教育、生涯学習など多岐にわたる社会的要請を受けている。大学教育は、アクティブ・ラーニングや文理融合教育、初年次教育の工夫、IR部門の設置などによってこれらの要請に応えている。国公私立の大学再編に向かう大学教育における多様な学習成果習得の方途を追求する本書は、今後の大学教育が進むべき報告を示す羅針盤となるだろう。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購読し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1. お名前、2. ご所属、3. 教員/職員 の別、4. 貸出希望の書名、5. 著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher/siryou/ をご参照ください。